

## 《研究課題名》

滋賀医科大学における plication 法を施行した外斜視手術症例の術後成績

## 《研究対象者》

2015 年 7 月から 2020 年 7 月に滋賀医科大学眼科で外斜視の片眼前後転術を施行され、術後 6 か月から 1 年の経過観察が可能であった方。

## 研究協力をお願い

滋賀医科大学において上記研究課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方の滋賀医科大学で既に保有している試料・情報を用いて行う研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。試料・情報の使用について、直接ご説明して同意はいただきず、このお知らせをもって説明に代えさせていただきます。対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

なお、本研究への試料・情報の提供を希望されない場合、あるいは、本研究に関するご質問は下記( 8 )の問い合わせ先へご連絡ください。

## ( 1 ) 研究の概要について

### 《研究課題名》

滋賀医科大学における plication 法を施行した外斜視手術症例の術後成績

《研究期間》 滋賀医科大学学長許可日 ~ 2025 年 3 月 31 日

《研究責任者》 滋賀医科大学 眼科学講座 岩佐真紀

## ( 2 ) 研究の意義、目的について

### 《意義》

外斜視手術は通常前後転術法でおこなわれます。前転術は内直筋を切腱し短縮する Resection 法と内直筋を切腱せず縫合で短縮する plication 法の 2 法が術式の主法です。plication 法は切腱せずに内直筋を短縮することができ、低侵襲で、より簡便に手術をすることができるため、近年広く使用されています。両術式の術後成績は報告により異なり、術式選択の明確な基準は存在しません。そのため、2 法の術後成績を比較検討することは、より正確な術式選択の基準を作成することになり、意義あるものと考えます。

### 《目的》

本研究では滋賀医科大学における外斜視に対する Plication 法と Resection 法の術後成績を後ろ向きに比較検討し、外斜視手術の術式選択基準を明確にし、長期的な眼位維持を良好にすることが目的です。

## ( 3 ) 研究の方法について

### 《研究の内容》

外斜視手術目的に当院受診し、片眼前後転術手術を行った症例の術後斜視角を診療録から後ろ向きに解析します。

### 《利用する試料・情報の項目》

オプアウト

手術施行時の年齢、術前遠見斜視角、術後1か月、3か月、6か月、1年の遠見斜視角。

## 《試料・情報の管理について責任を有する者》

眼科学講座 岩佐真紀

### （４）個人情報の取扱いについて

本研究を実施する際には、個人を特定できる情報は削除したり関わりのない記述等に置き換えたりして、ご提供いただいた試料・情報が誰のものか分からない状態にして使用します。ただし、必要な場合に個人を特定できるように、対象となる方とその方の試料・情報を結び付けることができる対応表を作成いたしますが、この対応表は施錠できる場所で担当者によって厳重に管理されます。

### （５）研究成果の公表について

本研究の成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。公表の際には個人が特定されることがないように、十分配慮いたします。

### （６）研究計画書等の入手又は閲覧

本研究の対象となる方又はその代理人の方は、希望される場合には、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で本研究に関する研究計画書等の資料を入手・閲覧することができます。ご希望の場合には、下記（８）の問い合わせ先へご連絡ください。

### （７）利用又は提供の停止

本研究の対象となる方又はその代理人の求めに応じて、対象者の方の試料・情報を本研究に利用（又は他の研究に提供）することについて停止することができます。停止を求められる場合には、2023年3月31日までに下記（８）にご連絡ください。

### （８）本研究に関する問い合わせ先

担当者：滋賀医科大学 眼科学講座 岩佐真紀

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号：077-548-2276

メールアドレス：iwasa@belle.shiga-med.ac.jp